



校長室だより 34号

中島 悟

【キャッチフレーズ】

未来に残そう 伝え築いた 振徳商業
目指せ 三種目 日本一 !

【今・来週の行事】12月11日(土) 振徳商デパート準備
12日(日) 振徳商デパート

1 「創立30周年に思うこと」2回卒・旧職員 堤 丈治 30周年記念誌より抜粋
2 出逢ったいい話『Qちゃんは、なぜ金メダルを取れたのか?』『致知』2010年9月号より抜粋

「創立30周年に思うこと」(原文) 2回卒・旧職員 堤 丈治

早いもので、もう母校振徳商業高校を卒業して26年が過ぎようとしている。

私にとって、振徳商業高校は特別の思いがある。入学して見ると、施設設備はとても貧弱で、プールもなく、運動場は石ころが多く、とても体育大会では裸足で走れないような状態の学校だった。よくこんな学校を選んだものだと友人達と話していたことを思い出す。

こんな状態の学校だが、とにかくやる気に満ちた先生方が多く、名物先生も多かった。現在日南振徳商業校長の上田先生は、当時簿記会計の担当をされており、1クラスの会計1級合格者がクラス生徒の大半を占める指導ぶりで有名でした。また、現在延岡商業高校の校長の西園先生も軟式テニスの顧問をされ、九州大会、全国大会出場に導かれました。

昨年退職された餅原先生は、硬式野球部を創部され、男子生徒の少ない環境の中でグラウンド作りや部員確保に取り組んでおられました。女子部の中では、現在延岡商業高校におられる知念先生のご指導のもと、タイプ部の活躍が目についておりました。さらに、現在は、退職された長嶺先生の陸上部の活躍が常に我々生徒に勇気と希望を与えてくれていたと思います。このような、すばらしい先生方のおられる母校と別れを告げ鹿児島経済大学に進学し、4年後またもや、振徳商業高校で教育実習をすることになったのです。私は、当時教職以外の道を目指しており、教育実習も単位を取るため仕方なしにいくということで、気分的には、正直仕方なくとの思いを持っていました。

ただ、日南振徳商業高校に来てみると、先生方の雰囲気もピリピリとされ、これは真剣勝負でいかないと大変なことになると、実感しました。

当時の教頭先生が、商研会長をされた冨家先生でした。先生から、「堤君、学生の気分では教職は勤まらない」とのお言葉を頂いたことを思い出します。それからの2週間は、自分で何をしていたかわからない内に、時間が過ぎていたと思います。

しかし、この2週間は私の人生を変えた2週間となりました。生徒のために全力で取り組む、そこに生徒との信頼関係を築く、このことに気づかせてもらったのも母校振徳商業でした。

この後、今度は教師として、振徳商業高校に赴任して、ワープロ部の顧問と商業科主任さらに、3年生の担任の仕事に任されました。ただ持論として、日南振徳商業高校に通う生徒の進路をもっと保障しないと、学科の定員割れを生じる事態になるとの認識を持っておりました。

何とか、地域の信頼を得ながら、特色ある学校作りができないかとの、課題意識を持

って、当時保護者の要請の強かった公務員指導をクラスの生徒の為に、始めました。

初め4名でスタートした公務員指導も、合格者が毎年自分のクラスに集中するようになると、他のクラスから、進路の課外に出ても通らないのでお願いしますとの声が多くなって来ました。そんなとき、鳥取部校長先生から、進路部に入って全体をみて欲しいとの要請がありました。商業科主任と3年生の担任さらに、ワープロ部の顧問、この上公務員の担当まですることは、仕事の割り振りができませんと一旦はお断りをしたのですが、「振徳商業の卒業生」として頑張っていて欲しいとのお言葉で、自分以外にこの仕事を引き受ける者はいないとの結論に達し引き受けました。

当時無名の振徳商業を、いつか全国レベルに持っていきたいとの気持ちに、生徒が一生懸命ついてきましたし、一緒にやる先生方も一生懸命であったと振り返って思います。その結果が、2年連続国家Ⅲ種試験の全国一の結果として残りました。生徒達は、課外に出るのが楽しみで試験前には、私の家に泊まり込むことを希望する生徒が多数おり、この時は、山下校長先生に本日の課外は遅くなりますとお届けし、夜の12時まで課外をやった日もありました。

初めて行った、サンヒル日南の夏公務員学習会や専門学校訪問等思い出は尽きませんが、日南振徳商業高校で私のわがままをお許しいただいた、竹之下、鳥取部、山下の校長先生方並びに西下・河野の両教頭先生、と進路主任の田中先生。また、当時担当をして頂いた、葛城先生、小坂先生、杉山先生、代永先生の各先生方に深く感謝するところです。

当時全国商業研究大会で発表した、内容を紹介して、終わりと致します。本校の概要 昭和45年に創立された比較的新しい学校であり、日南市の山並みと前後に酒谷・広渡の清流に囲まれた文字通り山紫水明の豊かな自然の中に位置する。進路状況は、就職79%、進学21%である。平成5年度の公務員合格状況は、国家Ⅲ種27名（行政16名、郵政10名、税務1名）郵政外務7名、裁判所1名、宮崎県職5名、市町村12名、海上保安学校1名、警視庁2名、東京消防庁4名、千葉県職1名の、延べ60名（実合格者36名）の合格であった。

出逢ったいい話 『Qちゃんは、なぜ金メダルを取れたのか？』 小出義雄氏（女子マラソン指導者）より

Qちゃん（高橋尚子選手）は素直だったし、明るかったし、何より嫉妬しない子でした。（よい成績を出した選手に対して）本当は嫉妬していたのかもしれないけれど表に出さず、「有森さん、よかったですね」、「鈴木さん、よかったですね」と喜んで、「私も頑張ります！」というタイプでした。

だから僕はいつもうちの選手たちに口を酸っぱくして言うんですけど、「自分だけ勝てばいいというのでは一流にはなれないよ」と。

人間、嫉妬しているうちは本当の福は回ってこない。たとえライバルだとしても、人の喜びを「よかったね」と心から喜んであげて、「私も頑張るわ」と発奮剤にできるような人じゃないと伸びないと思います。

企業であれば、「うちも儲けるからおたくも儲けてね」という姿勢が大事だと思います。

◇気遣いができなければ、一流の指導者にはなれない

◇得てして会社は余裕があると傾く

◇いくら筋を通して負けたら意味がない

◇指導者の仕事は夢を持たせてあげること

◇嫉妬しているうちは本当の福はやってこない

◇二番でも三番でもいい。そう思ったら人は伸びない